N34a 超新星残骸の天球面上における分布

田邊健茲（岡山理科大）、田邊直子（上芳賀天文台）

超新星残骸（SNRs）は現在までに約 300 個が見つかっている。そのうち数個（SN1006,1054,1181,1572,1604）ならびに CasA を除いてその爆発の年代は基本的に不明である。

我々は Stephenson and Green の最新のカタログに基づいてこれら SNR の銀河座標座標ならびに赤道座標での分布の map を作成してみた。

その結果、大半の SNR は銀河面に集中しているが、若干数が 15 度以上の高銀緯にある。また赤緯が -60 度より南にかなりの数の SNR が存在している。

それらの中には 10 世紀以降の東アジアでも見逃された超新星が存在している可能性がある。10 世紀以降のアジア、特に朝鮮半島ではきわめてすぐれた新天体（客星）の搜索が行われてきたからである。本講演ではそのような問題、ならびに missing supernovae の候補について言及する予定である。